

箇所名	刈生田(かりうだ) 市貝町刈生田
里山林の特徴・見どころ	道の駅サシバの里いちかから、県道黒田市埴真岡線を20分ほど北上し茂木町に入る手前にある、民家や農地を囲む裏山林です。

イノシシからの農作物への被害を防ぐために、藪の刈払いなどの手入れがされています。



今回は、もう少し裏山を進んだところにある森林において、森づくり活動として行われた、間伐作業について紹介します。



民家脇のみちを徒歩で進むこと約5分、急に明るい空間が開けてきました。

なにやら、人の声やチェーンソーの音が響いてきます。

更に道を進むと、ヒノキ林が姿を現しました



実は、ヒノキが多すぎて、太陽の光が地面に届かず、草も生えないような状況だったのです。

手前の藪の部分と較べると、林の中に草も生えずに、一見きれいに見えますが・・・。

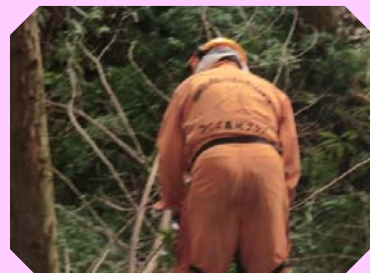


ヒノキの林の中に入ってみると、草や藪も無く歩きやすいのですが…。

ヒノキは細長く、ヒョロッとしており、中は薄暗く、地面は固くしまっています。

11月下旬ということもありますが、鳥や虫の姿も見えません。

そんなヒノキ林を、健全な姿に戻そうと作業をしています！



混み合っているヒノキを適度に伐採し、残った木の健全な生長を促します。



安全のため、ロープを使って木を倒す方向を誘導しています。

自分の方に木が倒れてこないよう、ちゃんとロープを廻して引いています。



作業の安全は道具の手入れから！
若い人達への指導も忘れません！

伐った木は、きちんと整理し、
キレイな林内を保ちます。



市貝町ふじやまを保全する会

今回、ヒノキ林の手入れをしていたのは、
「市貝町ふじやまを保全する会」
の方々です。

県内はじめ、茨城県、東京都などから参集し、
更にNPO法人トチギ環境未来基地から2名が加わり、
総勢15名で作業が行われました。

幅広い年齢層の方が一緒に作業されており、
技術の継承が進められています。